

2015年（平成27年） 5月 700号

しるしの導き

マリノ E. デハクト Jr.

しるしというものは、私たちの日常生活の中で大切だと考えられています。例えば道路に信号がなければ交通整理はできなくなりますし、事故も起こりやすくなって、皆が困るでしょう。それから、一つの国民を表わすために旗というしるしが使われます。ここでは旗はただの布ではなくて、国民が存在しているということを意味しています。ですから国旗は尊敬しなければならないと言われていています。キリスト教の場合、十字架は神の愛のしるしとして使われています。なぜなら十字架によって主キリストが私たちをあがなってくれたからです。でも、しるしの意味を間違えて捉えると必ず問題が起こります。例えば、信号の場合は、赤と青の意味が逆になったら大変なことになります。また、悪意を持ってある国の旗を燃やしてしまえば、命の危険にさらされるかもしれません。十字架の場合、キリストは優しい方ですから使い方を間違えたり、十字架を馬鹿にしたりしても、悔い改めれば、キリストはその人を許してくれるでしょう。とにかく、しるしの正しい意味を知ることが大切であり、そのしるしが何を意味しているのか理解しなければなりません。

マタイの福音書十一章の十八から十九節まで、人々は洗礼者ヨハネと主キリストの行われたしるしを理解できなかつたと書かれています。ヨハネは、人々が悔い改めるようにと厳しい生活をしました。そのために、彼は断食をし、贅沢な生き方をしませんでした。けれども人々は、ヨハネを悪霊に取りつかれている男と言いました。他方で、主キリストは普通の人と同じように生活して宣教していました。普通の人とは、遅くまで遊んだり、飲んだり、食べたりしていた人もいたことでしょう。主キリストも彼らと同じように生活していました。それなのに、主キリストが飲み食いすると、キリストは大食漢で大酒のみで、徴税人や罪人の仲間と言われていました。キリストがこの世に来たということは、ある意味で神の国はすでに到来しているわけです。ですから主キリストは洗礼者ヨハネの宣教方法とは違って、喜びを持ちながら福音を述べ伝えていました。それでも人々からは誤解され批判されたのです。当時の人々は、なぜ救いのしるしを理解することができなかつたのでしょうか。たぶん彼らはプライドが高くてヨハネや主キリストの教えを受け取ろうと思っていなかつたのです。彼らはキリストの「御言葉」を聞けば聞くほど反抗していました。つまり彼らは自分たちのプライドのために時のしるしを理解することができずに、神の招きに正しく答えなかつたのだと思います。

私たちも、神の招きに正しく答えているでしょうか。招きは人によって違うと思います。私も修道会に入ったばかりの時、必ずしも修道者になると思っていませんでした。日々の出来事の中で、しるしが神から伝えられていると思います。このしるしを正しく悟るために、私たちはプライドではなく謙遜のうちに過ぎなければならぬと思います。又神の「御旨」を知るために、私たちは自分ひとりの考えだけではなく、多くの人の考えや意見を参考にしなければならぬと思います。私たちは、神が招いているしるしを悟ることができ、謙遜な心を持つことができるように、イエス様に願ひましょう。